

平成 19 年 5 月 25 日

医道審議会 医師分科会
医師臨床研修部会
委員 各位

精神科七者懇談会* 卒後研修問題委員会**
委員長 小島 卓也

新医師精神科臨床研修の評価（中間報告）

新医師精神科研修の成果についてアンケート調査を用いて種々の角度から検討した。これらを総合すると、大部分の研修期間が1ヶ月と短かったが、ほぼ研修目標を達成し、有用度および満足度の高い研修が行われた。良好な成果が得られたのは、指導医講習会の開催（受講者1,700名）、指導ガイドラインの作成、教材の作成（DVDで学ぶ精神科医療の基本全14巻）、毎年関連学会でシンポジウムに取りあげて討論するなど精神科関連学会（七者懇談会など）の協力などが考えられる。

今後アンケートで明らかになった問題点を整理・修正し、より良い研修環境、指導体制を準備したい。

記

1. 七者懇談会（以下七者懇） 卒後研修問題委員会によるアンケート結果

1) 基本研修アンケート

各科共通で簡潔に評価が得られるようなアンケートをつくった。2年間の研修が終わり、それぞれの専門科に進んだ平成18年6月に817研修指定病院宛に9,495通の回答用ハガキを発送し、399通が回収された。これは平成16年度初期研修医7,372名の5.4%にあたった。

①患者—医師関係 ②チーム医療 ③問題対処能力 ④安全管理 ⑤症例呈示 ⑥医療の社会性 ⑦医療面接の7項目について、最もよく学べた研修領域（内科、外科など）に◎、比較的よく学べた研修領域に○をつけてもらった。「もっともよく学べた」と「比較的よく学べた」と答えたものの割合の和（選択率）を調べた。

科別に見るとチーム医療で外科（回答者の68%）が高かったのを除き、全ての項目で内科が最も高かった（患者—医師関係79%、問題対処能力72%、安全管理51%、症例提示84%、医療の社会性47%、医療面接74%）。これは内科の研修期間の長さによるものと考えられた。

◇ 精神科は医療面接が32%で内科に次ぐ評価を得た。医療の社会性については25%で内科47%、地域医療32%、救急32%に次いで高かった。

2) 精神科研修アンケート

基本研修アンケート回収後に、327の研修病院宛に6,053通のA4版4枚のアンケートを発送し、802通が回収された。上記研修医の10.9%にあたった。

精神科研修はほとんど2年目に1ヶ月(72.4%)の研修を行い、研修医の半数が精神科病院、2/3が大学病院を含む総合病院での研修を経験していた。

◇ 精神科研修の達成目標のすべてで過半数の達成率を示し、多くの領域で高い達成率を示した。特に精神障害に対する偏見の除去や理解で高い達成率を示した。

◇ 精神科指導體制、指導医に対する評価は高かった。

◇ 精神科研修の有用度は高く、84%が有用と評価した。特に偏見の除去と専門科で用いることができる精神医学的知識を得たことが、有用と評価した理由となっていた。一方で研修期間の短さが有用度を制限していた。

◇ 精神科研修の満足度は68.4/100点満点であった。指導医に対する高い評価が満足度と関連していた。

2. その他の調査

精神科病院協会の調査、国公立・自治体病院の調査、大学病院の調査、日本若手精神科医の会による多施設調査、総合病院精神医学会によるOn-line評価システムによる調査があり、様々な角度から検討したがいずれも精神科研修の有用度が高いという結果が得られている。

3. 結論

◇ 以上より新医師精神科臨床研修は大部分の研修期間が1ヶ月と短かったが、研修目標を達成し、有用度および満足度の高い研修が行われたといえる。

*精神科七者懇談会

日本精神神経学会
精神医学講座担当者会議
国立精神医療施設長協議会
日本精神神経科診療所協会
日本精神科病院協会
日本総合病院精神医学会
全国自治体病院協議会

**精神科七者懇談会 卒後研修問題委員会

委員長 小島 卓也
副委員長 保坂 隆

委員 日本精神神経学会：小島 卓也、鹿島 晴雄、神庭 重信
精神医学講座担当者会議：朝田 隆、天野 直二、前田 潔、守田 嘉男
国立精神医療施設長協議会：澁谷 治男、平野 誠
日本精神神経科診療所協会：松下 昌雄、越川 裕樹
日本精神科病院協会：長瀬 輝誼、森 隆夫、関 健
日本総合病院精神医学会：保坂 隆、中嶋 義文
全国自治体病院協議会：川副 泰成、中島 豊爾、岡崎 祐士